

■第2回目の講座は6月25日(土)「大阪のてっぺん」大阪府豊能郡能勢町にある、歌垣 SATOYAMA 楽舎で開催しました。

この日の参加者は20名。

天気に恵まれましたが、熱中症に注意しながらの開催となりました。



今回、ご担当頂くのは歌垣 SATOYAMA 楽舎代表の湯浅淳子さんです。

湯浅さんは2017年にこの地に移住され、築250年にもなる古民家を維持管理されています。

はじめに PowerPoint による、能勢町や活動地のご紹介がありました。



座学でこの地の特徴を学んだところで、午前中は農作業に必要な道具を分担して運び出し、近くの畑で作業開始です！！！！



農作業ははじめてな参加者もいたようですが、皆で力を合わせて作業しました☆





ジャガイモをはじめとして、野菜やニワトリの卵に至るまで、自然の恵みを沢山収穫できました。



羽釜で炊くご飯に感動の参加者さん。
カメラを向ける人が何人かいました。



今回、目玉のジビエ。
赤身が鹿肉で、アバラ付きの肌色の肉がイノシシ肉。
全て現地で採れたものです。





昼食の様子。
はじめて食べる食材に感動のご様子☆





午後からは栗林の保全活動地へ移動します。

途中にある栗林前では、特産品「銀寄栗」の由来の説明など、歴史の説明も盛り込まれた内容でした。



栗林の整備の様子。

草刈りに木の剪定に、汗を流しました。



周辺で見られた生きものたち。





隣接する栗林の説明に移動の様子。



今回、事務局が撮影できた飛翔中のキマダラルリツバメというシジミチョウの仲間。
葉の上に止まっている様子は撮影できませんでした。残念！



活動地から歌垣 SATOYAMA 楽舎に戻ってきて少し休憩中に、ニワトリの雛に癒されている様子。



ふり返りの様子。
皆の前で発表する事も、一つの練習です♪



最後に、全体で撮影会。
熱中症が心配されましたが、無事終了する事が出来ました。



アンケート結果では、「普段はできない経験や体験ができたので、ますますその保全活動に興味
がわきました。」「現場で実際に作業してみないと保全活動のしんどさ、楽しさというものはわから
ないため今回体験出来てよかったです。ある種を守ることは地球活性にもつながるため保全活動
の重要性がわかった。」といった回答が寄せられ、参加してはじめてわかる保全活動の重要性や
楽しさが伝わったようです。

また、「シカの食害 イノシシの食害対策について生態系のバランスと共に深く考えさせられまし
た。」といった感想や、「テレビでしか見たことがなかったシカやイノシシによる農作物の被害を実
際にみることができ、その深刻さがわかり、対策について詳しく知りたいと思った。ここでの活動
にぜひ参加したいと思った。」といった、この地での活動に前向きな内容がありました。

以上のように、この保全活動地でのシンボル「キマダラルリツバメ」や、それを取り巻く里山ならで
はの環境を知ることのできた講座となりました。